

しめ縄・じゃんがら・牛のせり

小野町地域おこし協力隊 阿井 伸介

地域おこし協力隊の阿井伸介です。この原稿の執筆時点では少し気温も落ち着いてきたかなあという感じですが、静岡から移住して小野町で初めての夏、朝晩の10度近い気温差に驚きました。地元の方々からは口々に“こんなに暑い年はない”とお聞きしましたので、涼しくなって夏の疲れが出ないよう皆さんにはご自愛いただきたく思います。

またこの原稿が掲載される頃は、農家の方々は稲刈りの真っ最中でしょうか？とても忙しい時期かとも思いますので体調など崩されませんように。

今回8月から9月の初旬にかけて経験させていただいたのは、上羽出庭のじゃんがら、しめ縄づくり、牛のせりです。

どれも初体験で、夏の盆踊りぐらいしか知らない私には、じゃんがらの動きの激しさ、しかも長く舞っている姿に“すごい”としか言いようがありませんでした。今年はいろいろ制限があって規模が縮小されてしまったようですが、上羽出庭のじゃんがらは昔から変わらずそのままの形で継承しているとのことでした。

しめ縄づくりは私がお世話になっている生産組合の役員の方が作って、秋祭りに合わせて神社に奉納するとのことでした。私は見学とちょっとだけお手伝いをさせていただきました。ただの藁の状態からしめ縄になるまでを見させていただきましたが、何せしめ縄を家庭で作るなんて思ってもみたことがない私には“なぜこうなる？”の連続でなにがなにやら…。しめ縄が形になって完成した姿を見て、役員さんに「覚えてばい？」と言われましたが、食い気味に「無理!!」と即答することしかできませんでした。まずは一本の藁をちゃんと“よれる”ように練習したいと思います。



しめ縄づくり

そして繁殖農家さんに声を掛けていただき“せり”にも行かせてもらいました。たくさんの牛が集まっていたのでかなりの時間が掛かるのだらうと思っていましたが、まるでベルトコンベヤーの上に乗っているかのように牛がスタスタとせり場に入って行き、ポンポンと売買が成立していくのは圧巻でした。

最後になりますが、9月から今年収穫分の黒にんにくの販売が開始されました。私は今年初めて、にんにくの栽培から黒にんにくに加工する製造過程まで、手間暇かけてじっくりと仕上げている様子を見せていただきました。より甘味の乗った、こだわりの熟成具合を味わっていただければ幸いです。



牛のせり場の様子